

右翼的労働戦線「統一」問題を考える

三里塚二期着工攻撃粉碎を突破口に 右翼的労働戦線「統一」攻撃を粉碎しよう

いま、総評をはじめ日本の労働運動全体が労働戦線「統一」問題をめぐって「統一準備会」に参加するか、しないかで大きく揺れ動いています。

去る十月九日～十日の二日間にわたって開催された動労千葉第六回定期大会において、われわれは、この労働戦線「統一」問題について十分な討論を深め、「右翼的労働戦線「統一」攻撃を粉碎するたにかいへのアピール」を満場一致採択しました。

労働戦線「統一」が実は、「統一」の名をかりた右からの総評解体・分裂の攻撃であり、戦闘的労働運動そのものの根だやしをめざした支配階級の戦争と侵略と反動攻撃の一環としてかけられた攻撃であることをはっきりと見抜かなければなりません。

労働戦線「統一」攻撃とは、一体何か。この攻撃をいかに粉碎していくのか。
以下、『日刊』紙上で連載し、全組合員の皆さんと共に考えてゆきたいと思
います。

労働戦線「統一」の推進者は誰れか

労働戦線「統一」の母体となっているのは、「統一推進会」です。この「統一推進会」は、同盟

副会長・自動車総連会長塩路一郎、同盟会長・ゼンセン同盟会長宇佐美忠信、同盟副会長・電力労連会長橋本孝一郎、中立労連議長・電機労連委員長堅山利文、さらに、総評加盟の鉄鋼労連委員長中村卓彦、全日通委員長中川豊の民間六単産委員長で構成されています。

この「統一推進会」の構成メンバーでも明らか
なようにIMF(国際金属労連)・JC(金属労
協)結成(六四年)以来同盟と一体となって十数
年間にわたり、総評労働運動破壊Ⅱ右翼的労働戦
線「統一」策動を執り続けてきた人物ばかり
です。(くわしくは後でふれます)

そして、この「統一推進会」は昨年九月三十日
第一回会合以降十二回にわたって非公開の会合を
重ね、去る六月三日「民間先行による労働戦線統
一の基本構想」を発表しました。

この「基本構想」と非公開で行われた会合の「
議事録」は、「統一推進会」のめざすものが極め
て反動的なものであることを物語っています。
(以下、次回)

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

狭山再審闘争は、最高裁の特別抗告棄却策動の強まりの中で重大な段階をむかえている。

われわれは、部落民であるというただそれだけの理由で十八年間獄中にとらわれている石川一雄氏の怒りと闘いをうけとめ、
10・31狭山中央集會に総決起し、狭山再審闘争貫徹

・無実の石川一雄氏即時奪還を闘い抜かなければならぬ。
石川一雄氏無実の新証拠・証言で再審闘争勝利へ
去る十月十二日、狭山再審弁護団は、

10・31狭山中央集會へ 石川一雄氏は無実だ！再審闘争勝利へ

新証言・新証拠を新たな武器に

報告書」である。

この「捜査報告書」の中で小名木さんは、「事件」発生時刻に「犯行現場」とされている雑木林わきの桑畑で除草剤の散布作業をしており、被害者の悲鳴や石川氏のどなり声は聞こえなかった、と事

件直後の警察官の調べに対して証言していたのである。

この石川氏無実の重大な証拠を警察・検察当局は十八年間も隠し続け、無実の石川一雄氏をただただ部落民であるということのみで極刑に処したのである。

明らかのように、石川氏無実と「狭山事件」の真実を示す数多くの重要な証拠が権力の手によって隠され続けていることがはつきりとした。

10・31狭山中央集會に総決起し、狭山再審闘争勝利・石川氏奪還を闘いとう。